

# 2023 年度事業報告

事業年度 (2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

緑：完了、青：継続中、オレンジ：変更・新規、黄色：中止

## ■留学生及び日本人学生の奨学事業【公 1】(公益目的事業 1)

|                   |     |                          |  |
|-------------------|-----|--------------------------|--|
| 奨学<br>金<br>支<br>給 | (1) | 渥美奨学金の支給 (16 名、月額 25 万円) | 4 月～8 月支給の 2022 年度奨学生が 1 名、9 月～3 月支給の 2023 年度奨学生が 1 名 (9 月支給開始のため)。<br>■博士号取得者 計 20 名、学振 PD 7 名<br><2023 年度奨学生> 9 名<br>・ He Xingyu 何星雨 (中国) 東京学芸大学 博士 (児童学研究)   東京家政大学非常勤講師、文教大学非常勤講師、女子栄養大学非常勤講師<br>・ Jia Haitao 賈海涛 (中国) 一橋大学 博士 (言語社会)   神奈川大学外国語学部中国語学科外国人特任助教<br>・ Kim Heecheol 金希哲 (韓国) 東京大学 博士 (知能機械情報学)   (株)Tefa Robotics (在ソウル)<br>・ Kraft, Robert クラフト、ロバート (ドイツ) 筑波大学 博士 (日本史学)   筑波大学文書館<br>・ Ma Geyang 馬歌陽 (中国) 早稲田大学 博士 (美術史学)   中国で就活中<br>・ Shirakawa Makoto 白川誠 (日本) 東京大学 博士 (森林科学)   東京大学大学院農学生命科学研究科附属アジア生物資源環境研究センター 特任研究員<br>・ Someya Rinako 染谷莉奈子 (日本) 中央大学 博士 (社会学)   日本学術振興会特別研究員 PD (法政大学)<br>・ Tokunaga Yoshiaki 徳永佳晃 (日本) 東京大学 博士(地域文化研究)   日本学術振興会特別研究員 PD (日本大学)<br>・ Xu Zixin 徐子焮 (中国) 東京大学 博士 (生殖発達加齢医学)   東京大学医学部生殖発達加齢医学研究員。医師国家試験受験中 |
|-------------------|-----|--------------------------|--|

|     |   |   |
|-----|---|---|
|     |   | <p>&lt;2022 年度奨学生&gt; 5 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Ahn Eun-byul 安ウンビョル (韓国) 東京大学 博士 (学際情報学)   東京大学情報学環助教</li> <li>・ Ding Yi 丁乙 (中国) 東京大学 博士 (美学芸術学)   日本学術振興会外国人特別研究員 (京都大学)</li> <li>・ Kato Kenta 加藤健太 (日本) 早稲田大学 博士 (国際コミュニケーション研究)   明治大学商学部専任講師</li> <li>・ Moharramipour, Zahra モハツラミプール、ザヘラ (イラン) 東京大学 博士 (超域文化科学)   日本学術振興会外国人特別研究員 (国立民族学博物館)</li> <li>・ Prokhorova, Maria プロホロワ、マリア (ロシア) 東京外国語大学 博士 (比較文学研究)   東京外国語大学言語文化学部ロシア語特定外国語教員</li> </ul> <p>&lt;2021 年度奨学生&gt; 5 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Chan Ya-hsun 詹亜訓 (台湾) 東京大学 博士 (国際社会科学)   日本学術振興会外国人特別研究員・早稲田大学政治経済学術院政治学研究科訪問研究員</li> <li>・ Chiang Hsun-yi 蔣薰誼 (台湾) 東京大学 博士 (アジア文化研究)   東京大学人文社会系研究科教務補佐員</li> <li>・ Cho You-kyung 曹有敬 (韓国) 東京大学 博士 (美学芸術学)   日本学術振興会特別研究員 PD (東京藝術大学)</li> <li>・ Guo Lifu 郭立夫 (中国) 東京大学 博士 (地域文化研究)   筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局助教</li> <li>・ Wang Xingfang 王杏芳 (中国) 東京大学 博士 (法学政治学)   東京大学法学政治学研究科附属のビジネスロー・比較法政研究センターの特任講師</li> </ul> <p>&lt;2019 年度奨学生&gt; 1 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Chen Zhao 陳昭 (中国) 東京大学 博士 (文化人類学)   東京都立大学人文社会学部 人間社会学科 社会人類学教室特別研究員 (日本学術振興会 PD)</li> </ul> |
| (2) | <p>博士号取得者の海外学会参加者奨学金<br/>渥美奨学生で博士号を取得した者に、海外で開催される学会等に参加するための旅費・宿泊費等を支給する。但し、海外に居住する者は、日本への</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 譚 天陽 (2022 年度奨学生) : 2023 年 6 月 19 日～25 日 ALAI2023 (国際著作権法学会 2023 大会) 於フランス・パリ</li> <li>・ 趙 炳郁 (2022 年度奨学生) : 2023 年 10 月 14 日～21 日 MicroTAS2023 (International Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences) 於ポーランド・カトヴィツェ</li> </ul>  |

|              |     |   |  |
|--------------|-----|---|--|
|              |     | <p>旅費等に充当することができる。(30 万円を上限とする)</p>   | <p>・近藤 慎司 (2022 年度奨学生) : 2024 年 2 月 18 日～21 日 38th Australasian Polymer Symposium 於ニュージーランド・オークランド</p>   |
|              | (3) | <p>元奨学生を対象とした継続支援奨学金<br/>奨学金支給期間に博士号を取得できず、現在も常勤職につかずに研究を続けている者 (約 14 名) に各 10 万円の奨学金を 6 月、12 月、3 月に支給する。</p> | <p>博士論文を執筆中で常勤職のない元渥美奨学生。<br/>・5 月理事会の承認後に一時金 10 万円を 11 人に支給<br/>・12 月理事会の承認後に一時金 10 万円を 7 人に支給<br/>・3 月理事会の承認後に一時金 10 万円を 4 人に支給</p>  |
| 募集<br>選<br>考 | (4) | <p>2024 年度第 30 期奨学生 (16 名) の募集・選考<br/>応募資格 : ①奨学期間内に博士号取得の見込み②関東地方の大学院に在籍③日本語が堪能④国際理解に関心</p>                  | <p>(1) 募集<br/>・7 月 1 日 : 博士課程のある関東地方 137 大学の担当課、渥美財団 HP 上で募集要項案内開始<br/>・9 月 1 日 : 応募受付開始<br/>・9 月 29 日 : 応募締め切り (29 大学 19 ヶ国 / 地域より 93 名応募 : 競争率は 5.8 倍)</p> <p>(2) 選考 : 下記の 3 段階で行われ、各段階とも複数の委員による評価数値の合算方式で合否を決定。<br/>①予備書類審査<br/>9 月 29 日～10 月 5 日 第一次書類選考 : 応募書類の 15 項目を数値化 &lt;52 名に&gt;<br/>10 月 6 日～7 日予備選考委員による第二次書類選考 &lt;36 名に&gt;<br/>②予備面接審査<br/>11 月 1 日～11 月 7 日 予備選考委員による面接 &lt;24 名に&gt;<br/>③最終選考委員会 (書類審査及び面接審査)<br/>12 月 2 日 最終選考会 (書類審査と面接) &lt;16 名を決定&gt;</p> <p>(3) 選考委員会の構成<br/>《最終選考》<br/>委員長 田村次郎 慶應義塾大学教授 (法学)<br/>委員 細田衛士 慶應義塾大学名誉教授、東海大学教授 (経営情報学)<br/>委員 山科章 東京医科大学名誉教授、桐生大学副学長 (医学)</p> |

委員 金子成彦 東京大学名誉教授、早稲田大学教授（機械工学）

委員 奥田暁代 慶應義塾大学教授（英文学）

委員 佐藤道信 東京藝術大学教授（美術史）

《予備選考》

委員（面接） 片岡達治 元癌研究会研究員（薬学）

委員（面接） 平川均 名古屋大学名誉教授（経済学）

委員（面接） 今西淳子 渥美国際交流財団常務理事

委員（書類） 施建明 東京理科大学教授（数学）

委員（書類） 韓京子 青山大学教授（文学）

委員（書類） シムチュンキョット昭和女子大教授（教育学）

委員（書類） ヨサファット千葉大学教授（電子工学）

委員（書類） 原田健 渥美国際交流財団事務局長補佐

(4) 2024 年度渥美奨学生リスト

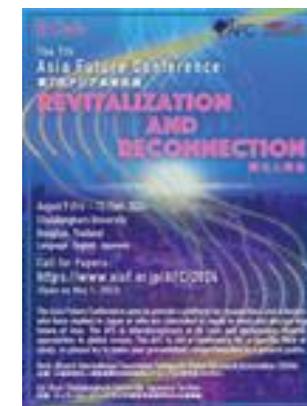
1. Choe Min-hyeok 崔民赫（韓国）東京大学（総合法政）
2. Choi Go-eun 崔高恩（韓国）東京大学（言語情報科学）
3. Gu Jiachen 顧嘉晨（中国）東京大学（アジア文化研究）
4. Idrus イドゥルス（インドネシア）筑波大学（国際日本研究）
5. Idzieva Diana イドジーエヴァジアーナ（ロシア）東京外国語大学（世界言語社会）
6. Iwata Kazuma 岩田和馬（日本）東京外国語大学（世界言語社会）
7. Kurotaki Kana 黒滝香奈（日本）一橋大学（日本近世史）
8. Luxmiwattana Motoki ラクスミワタナモトキ（タイ）早稲田大学（国際関係学）
9. Masnin Mohd Farez Syinon Bin マスニン ムハッマドファリス シノン ビン（マレーシア）  
早稲田大学（社会言語学）
10. Mastiyage Don Sudeera Hasaranga Gunathilaka マスティヤゲドン スディーラ ハサランガ グナ  
ティラカ（スリランカ）東京工業大学（情報工学系知能情報）
11. Okuda Genki 奥田弦希（日本）東京大学（西洋史学）

|      |     |  |   |
|------|-----|--|---|
|      |     |  | <p>12. Omoto Keiko 大元慶子 (日本) 関東学院大学 (社会 (障害) 学)</p> <p>13. Qiu Zhengpeng 邱政芃 (台湾) 東京大学 (言語情報科学)</p> <p>14. Sato Yuna 佐藤祐菜 (日本) 慶應義塾大学/南オーストラリア大学大学院 (社会学)</p> <p>15. Yan Zhixiang 閻志翔 (中国) 東京藝術大学 (日本・東洋美術史)</p> <p>16. Zhang Jun 張珺 (中国) 東京大学 (アジア文化研究)</p>  |
| 生活支援 | (5) | <p>1 毎月の交流会</p> <p>※コロナ禍で計画の実施が困難な場合は、渥美財団ホールとオンラインを組み合わせた代替プログラムにより毎月の交流会を実施する。</p> <p>4月 月例会</p> <p>5月 個別面談</p> <p>6月 評議員会後の講演会/食事会</p> <p>7月 宿泊研修</p> <p>8月 食事会</p> <p>9月 個別面談</p> <p>10月 2022 年度奨学生秋季研究報告会*</p> <p>11月 見学会</p> <p>12月 忘年会</p> <p>1月 新年会</p> <p>2月 個別面談</p> <p>3月 2023 年度奨学生春季研究報告会*</p> <p>3月 2023 年度奨学生最後の食事会</p> | <p>(*は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド方式)</p> <p>4月1日: 2023 年度奨学生最初の集い*</p> <p>5月10~18日: 個別面談 (対面またはオンライン)</p> <p>6月1日: 自己紹介ビデオの作成と評議員会後の講演会にオンラインで参加<br/>井上 博允評議員「AI とどう付き合うか?」</p> <p>6月30日~7月2日: 葦崎ワークショップ (2参照)</p> <p>7月15日: 理事長講演会と BBQ</p> <p>9月4~8日: 個人面談 (対面またはオンライン)</p> <p>9月30日: 秋季研究報告会 *</p> <p>11月22日: 浜松町二丁目地区市街地再開発現場見学会+懇親会</p> <p>12月16日: 忘年会</p> <p>1月20日: 新年会</p> <p>2月: 個人面談</p> <p>3月2日: 春季研究報告会</p> <p>3月: 最後の食事会の代わりに 30 周年感謝の集いに参加</p> |
|      |     | <p>2 宿泊研修を開催</p> <p>日時: 2023 年 6 月 30 日 (金) ~7 月 2 日 (日)</p> <p>会場: シャトレーゼにらさきの森</p> <p>※コロナ禍で宿泊事業の実施が困難な場合は、渥美財団ホールとオンラインを組み合わせたハイブ</p>   | <p>6月30日~7月2日葦崎ワークショップ「ジェンダーについて考えてみよう」<br/>(ファシリテータ: ソンヤ、ミヤ、マグダレナ、加藤健太)</p> <p>日時: 2023 年 6 月 30 日 (金) ~7 月 2 日 (日)</p> <p>会場: シャトレーゼホテルにらさきの森</p> <p>4年ぶりの夏期宿泊研修を、初めて葦崎市のシャトレーゼホテルで開催。今年度奨学生全員 (16</p>  |

|     |  |  |
|-----|--|--|
|     | リッド形式でワークショップを実施する。  | 名)、元奨学生ファシリテータ 4 名、一般参加 5 名、スタッフ 5 名の計 30 名が参加。全シングルルームの研修施設の上、会議室も貸し切りで快適に過ごした。 |
| (6) | <b>フォローアップ事業</b>   |  |
|     | ① 宿泊研修 (7 月)、秋季研究報告会 (9 月)、忘年会 (12 月)、新年会 (1 月)、春季研究報告会 (3 月) に講師、あるいは参加者として元奨学生を招待。 | 宿泊研修 (7 月)、秋季研究報告会 (9 月)、新年会 (1 月)、春季研究報告会 (3 月) に講師、あるいは参加者として元奨学生を招待。          |
|     | 2 その他適時世界各地またはオンラインでラクーン会 (同窓会) を開催  | 9 月 13 日: バンコクラクーン会 7 名、10 月 20 日: 台湾ラクーン会@島根 10 名                               |

## ■留学生及び日本人学生を通じた国際交流事業 (SGRA の活動) 【公 2】 (公益目的事業 2)

|                  |     |                                |   |
|------------------|-----|--------------------------------|---|
| 学<br>術<br>交<br>流 | (7) | 第 7 回アジア未来会議の準備                |   |
|                  | 1   | 論文募集開始: ウェブサイトの開設 (5 月 1 日までに) | <p>5 月 10 日: ウェブサイトを開設し、論文募集を開始。</p> <p>発表要旨の投稿締切:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金・優秀賞に応募する場合 2023 年 8 月 31 日(木)<br/>⇒締切を 9 月 20 日(水)に延期</li> <li>・奨学金・優秀賞に応募しない場合 2024 年 2 月 29 日 (木)</li> </ul> <p>9 月 20 日: 奨学金・優秀賞に応募する論文の発表要旨の締切<br/>投稿数: 214 本⇒1 本の発表要旨を 4 名の査読委員が読み、奨学金の選考のため点数で 4 段階評価。</p> <p>10 月 31 日: 発表要旨の可否を発表。今回は全員合格。</p> <p>2024 年 1 月 20 日: AFC 奨学金審査結果発表のお知らせ</p> <p>3 月 31 日: AFC 奨学金および優秀論文賞の対象者のフルペーパーのオンライン投稿 (PDF ファイルのアップロード) 締切</p> |



|   |                  |   |
|---|------------------|---|
| プ<br>ロ<br>ジ<br>エ<br>ク<br>ト<br>の<br>実<br>施 | 2 会場等視察 (9月中旬予定) | <p>9月12~15日会場等視察を実施。<br/>9月13日タイ鹿島訪問、チュラーロンコーン大学視察。<br/>9月14日バンコク市内ホテル視察。</p>   |
|   | (8)              | <p><b>SGRA フォーラム・カフェ・スタディツアー等を主催・共催</b></p> <p>1 第37回持続可能な共有型成長セミナー<br/>テーマ:「東アジアダイナミクス」<br/>日時:2023年4月10日(月)10時~13時<br/>会場:渥美財団ホール&amp;オンライン(ハイブリッド)<br/>言語:英語と日本語(必要に応じて逐次通訳)<br/>参加者(見込み):50名<br/>担当:マックス・マキト(フィリピン大学ロスバニョス校)</p> <p>第37回共有型セミナー@東京「東アジアダイナミクス」を開催<br/>テーマ:「東アジアダイナミクス」<br/>日 時:2023年4月10日(月)午前10時~午後1時<br/>会 場:渥美国際交流財団ホール(東京都文京区)<br/>方 法:会場参加およびオンライン(Zoom Meeting)<br/>参加者:約50名<br/>報告書:<br/>■プログラム<br/>【第1部】問題提起<br/>平川均(INAF 理事長、渥美財団理事、名古屋大学)<br/>マックス・マキト(CPAf/UPLB, SGRA/AISF)<br/>【第2部】討論<br/>ダムセル・コルテス(CPAf/UPLB)<br/>李 鋼 哲 (INAF, SGRA/AISF)<br/>ジャクファル・イドラス(国士舘大学, SGRA/AISF)<br/>■フィリピン大学ロスバニョス校(UPLB) 公共政策開発大学院(CPAf)、一般社団法人東北亜未来構想研究所(INAF)が共催</p> |



2 第 21 回日韓アジア未来フォーラム  
 テーマ：「新たな脅威・新たな安全保障」  
 日時：2023 年 4 月 22 日（土）  
 会場：渥美財団ホール&オンライン（ハイブリッド）  
 言語：日本語・韓国語（同時通訳）  
 参加者（見込み）：50 名  
 担当：金雄熙（仁荷大学）

第 21 回日韓アジア未来フォーラム「新たな脅威（エマージングリスク）・新たな安全保障（エマージングセキュリティ）-これからの政策への挑戦-」を開催  
 テーマ：「新たな脅威（エマージングリスク）・新たな安全保障（エマージングセキュリティ）-これからの政策への挑戦-」  
 日 時：2023 年 4 月 22 日（土）14:00～17:00  
 方 法：渥美財団ホールおよび Zoom ウェビナー  
 言 語：日本語・韓国語（同時通訳）  
 参加登録者：113 名  
 報告書：SGRA レポート第 104 号（2023 年 11 月 15 日発行）

■プログラム

総合司会 金 雄熙（韓国・仁荷大学教授）

第 1 セッション

【開会挨拶】徐 載鎮（財団法人未来人力研究院院長）  
 【基調講演 1】金 湘培（ソウル大学政治外交学部教授）  
 【基調講演 2】鈴木 一人（東京大学公共政策大学院教授）

第 2 セッション

【コメント】李 元徳（国民大学校社会科学大学教授）  
 西野純也（慶應義塾大学法学部政治学科教授・オンライン）  
 林 恩廷（公州大学国際学部副教授）  
 金 崇培（国立釜慶大学人文社会科学部助教授）

第 3 セッション

【自由討論/質疑応答】モデレータ：金 雄熙  
 【総括・閉会】平川 均（名古屋大学名誉教授/渥美国際交流財団 理事/第 21 回日韓アジア未来フォーラム実行委員長）

■第 21 回日韓アジア未来フォーラム実行委員会、財団法人未来人力研究院（韓国）が共催  
 ■（公財）鹿島学術振興財団より助成



3 第 71 回 SGRA フォーラム/第 8 回国史対話の可能性

テーマ：「20 世紀の戦争・植民地支配と和解はどのように語られてきたのか」

日時：2023 年 8 月 8 日（火）～9 日（水）

会場：早稲田大学

言語：日本語・中国語・韓国語（同時通訳）

参加者（見込み）：100 名

担当：李恩民（桜美林大学）

第 72 回 SGRA フォーラム 第 8 回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性 「20 世紀の戦争・植民地支配と和解はどのように語られてきたのか——教育・メディア・研究」を開催

テーマ：「20 世紀の戦争・植民地支配と和解はどのように語られてきたのか——教育・メディア・研究」

日 時：2023 年 8 月 8 日（火）9:00～17:50、8 月 9 日（水）9:00～12:50（日本時間）

会 場：早稲田大学 14 号館 8 階 及び オンライン（Zoom ウェビナー）

言 語：日中韓 3 言語同時通訳付き

参加者：約 170 名（会場約 70 名、オンライン約 100 名）

報告書：SGRA レポート第 106 号編集中

■ プログラム

【第 1 セッション 司会：村和明】

開会挨拶：劉傑（早稲田大学）

趣旨説明：三谷博（東京大学名誉教授）

【第 2 セッション サブテーマ：教育 司会：南基正】

発表：金泰雄（ソウル大学）

唐小兵（華東師範大学）

塩出浩之（京都大学）

【第 3 セッション サブテーマ：メディア 司会：李恩民】

発表：江沛（南開大学）

福間良明（立命館大学）

李基勳（延世大学）

【第 4 セッション サブテーマ：研究 司会：宋志勇】

発表：安岡健一（大阪大学）

梁知恵（東北亜歴史財団）

陳紅民（浙江大学）



|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  | <p>論点整理：劉傑（早稲田大学）</p> <p>【第 5、6 セッション：全体討議（指定討論）司会：鄭淳一、彭浩】</p> <p>議論を始めるに当たって：三谷博（東京大学名誉教授）</p> <p>全体討議：平山昇（神奈川大学、日本）</p> <p>金滸（ソウル大学、韓国）</p> <p>金憲柱（国立ハンバット大学、韓国）</p> <p>史博公（中国伝媒大学、中国）</p> <p>吉井文美（国立歴史民俗博物館、日本）</p> <p>袁慶豊（中国伝媒大学、中国）</p> <p>張曉剛（長春師範大学、中国）</p> <p>閉会挨拶：趙珖（高麗大学名誉教授）</p> <p>■早稲田大学先端社会科学研究所・東アジア国際関係研究所共催</p> <p>■（公財）高橋産業経済研究財団より助成</p>  |
|  | <p>4 第 16 回ウランバートル国際シンポジウムを共催</p> <p>テーマ：「モンゴルにおけるシルクロード文化財」</p> <p>日時：2023 年 9 月 2 日（土）～4 日（月）</p> <p>会場：モンゴル国立大学 2 号館 4 階多目的室</p> <p>協力機関：昭和女子大学国際文化研究所、モンゴル国立大学社会科学部、他</p> <p>言語：日本語・英語、モンゴル語</p> <p>参加者（見込み）：日本、モンゴル、ロシア、中国、韓国、ドイツからの研究者 100 名</p> <p>担当：ボルジギン・フスレ（昭和女子大学）</p> | <p>第 16 回ウランバートル国際シンポジウムを共催</p> <p>テーマ：「モンゴルにおけるシルクロード文化遺産」</p> <p>日時：2023 年 9 月 2（土）、3 日（日）</p> <p>会場：モンゴル国立大学図書館 2 階多目的室（202 室）</p> <p>言語：モンゴル語、日本語逐次通訳</p> <p>参加者：100 名余り</p> <p>報告書：2023 年 3 月出版予定</p> <p>■プログラム</p> <p>日本、モンゴル、ポーランドの研究者 16 名（共同発表も含む）により、12 本の報告</p> <p>Ts.バトバヤル（モンゴル科学アカデミー会員・前在キューバモンゴル大使）、二木博史（東京外国語大学名誉教授）、G.ガルバヤル（モンゴル国立府大学副学長、教授）、湊邦生（高知大学教授）、大谷育恵（京都大学研究員）、J.オランゴア（モンゴル国立大学教授）、U.エルデネバト（モンゴル国立大学教授）、R.ビャンバー（ワルシャワ大学講師）など。</p> <p>■昭和女子大学国際学部国際学科、モンゴル国立大学科学カレッジ人文科学系アジア研究学科と共</p> |



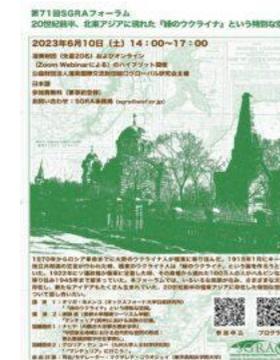
|   |   |  |
|---|---|--|
|   |   | 同主催<br>■昭和女子大学、在モンゴル日本大使館、公益財団法人渥美国際交流財団等後援<br>■麒麟山酒造株式会社、ユジ・エネルギー有限会社協賛   |
| 5 | 第 10 回 SGRA ふくしまスタディツアー<br>テーマ：「未定」 日時：2023 年 10 月上旬<br>協力：認定 NPO 法人ふくしま再生の会<br>参加者（見込み）：15 名<br>*コロナ禍等により宿舍の提供等が困難な場合には中止する。 | 中止   |
| 6 | 第 10 回日台アジア未来フォーラム@島根<br>テーマ：「日台の酒造りと文化：日本酒 vs 紹興酒」<br>日時：2023 年 10 月 21 日（土）<br>会場：JR 松江駅前ビル・テルサ 4 階大会議室<br>参加者（見込み）：50 名    | 第 10 回日台アジア未来フォーラム「日台の酒造りと文化：日本酒と紹興酒」を開催<br>テーマ：「日台の酒造りと文化：日本酒と紹興酒」<br>日 時：2023 年 10 月 21 日（土）14 時～17 時 10 分<br>会 場：JR 松江駅前ビル・テルサ 4 階大会議室<br>言 語：日本語・中国語（同時通訳）<br>参加登録者：43 名<br>報告書：SGRA かわらばんに掲載<br>■プログラム<br>【講演 1】要木純一（島根大学法文学部教授）<br>【講演 2】土佐典照（島根県産業技術センター）<br>【講演 3】江 銘峻（臺灣菸酒股份有限公司）<br>【質疑応答】<br>■（一財）松江コンベンションビューローくにびきメッセより助成 |
| 7 | 東アジア日本研究者協議会第 7 回国際学術大会を協催、3 セッションを主催<br>日時：2023 年 11 月 3 日（金/祝）～5 日（日）<br>会場：東京外国語大学   | 東アジア日本研究者協議会第 7 回国際学術大会を協催、5 セッションを主催。派遣者 24 名<br>・「日本から学ぶ地域通貨」（チームリーダー：マックス・マキト（フィリピン大学ロスバニョス校））<br>・「異文化の流通や受容：日本を中心に」（チームリーダー：陳藝婕（上海大学））  |



|  |  |   |
|--|--|---|
|  | <p>派遣者：(見込み) 20 名</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「近代東洋文化における関連概念の変容」(チームリーダー：林泉忠 (武漢大学))</li> <li>・「中東における日本研究と日本語教育—マンガ・アニメの受容と若者の日本語への関心」(チームリーダー：カバ・メレキ (チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学))</li> <li>・「帝国という言説空間の越境・連帯・抵抗—アナキズムと現代詩、ポリティカル・アート」(チームリーダー：詹亜訓 (放送大学))</li> </ul>  |
|  | <p>8 第 17 回 SGRA チャイナ・フォーラムを主催<br/>         テーマ：加藤陽子先生講演 (予定)<br/>         日時：2023 年 11 月 (予定)<br/>         会場：北京大学 または オンライン (ハイブリッド)<br/>         協力機関：清華東亜文化講座、国際交流基金北京日本文化センター<br/>         言語：日本語・中国語 (同時通訳)<br/>         参加者 (見込み)：300 名<br/>         担当：林少陽 (澳門大学)、孫建軍 (北京大学)</p> | <p>第 17 回 SGRA チャイナ・フォーラム「東南アジアにおける近代〈美術〉の誕生」を開催<br/>         テーマ：「東南アジアにおける近代〈美術〉の誕生」<br/>         日時：2023 年 11 月 25 日 (土) 午後 3 時～5 時 (北京時間) / 午後 4 時～6 時 (東京時間)<br/>         会場：渥美財団ホール、北京学会場、オンライン (Zoom Webinar) のハイブリッド形式<br/>         言語：日中同時通訳<br/>         参加者：150 名<br/>         報告書：SGRA レポート第 107 号を編集<br/>         ■ プログラム<br/>         総合司会 孫建軍 (北京大学日本語文化学部 / SGRA)<br/>         【開会挨拶】今西淳子 (渥美国際交流財団 / SGRA)<br/>         【挨拶】野田昭彦 (国際交流基金北京日本研究センター)<br/>         【講演】後小路雅弘 (北九州市立美術館館長)<br/>         【指定討論】討論者：熊燃 (北京大学外国語学院)<br/>         堀川理沙 (ナショナル・ギャラリー・シンガポール)<br/>         【自由討論】モデレータ：林少陽 (澳門大学歴史学科 / SGRA / 清華東亜文化講座)<br/>         【閉会挨拶】趙京華 (清華東亜文化講座 / 北京第二外国語学院)<br/>         ■ 北京大学日本文化研究所、清華東亜文化講座が共同主催<br/>         ■ 国際交流基金北京日本文化センターが後援、鹿島建設 (中国) 有限公司が協賛</p> |
|  | <p>9 第 72 回 SGRA フォーラムを主催<br/>         テーマ：「未定」(企画を公募中)<br/>         日時：未定<br/>         会場：ハイブリッド</p>  | <p>第 71 回 SGRA フォーラム「20 世紀前半、北東アジアに現れた『緑のウクライナ』という特別な空間」を開催<br/>         テーマ：「20 世紀前半、北東アジアに現れた『緑のウクライナ』という特別な空間」<br/>         日 時：2023 年 6 月 10 日 (土) 午後 2 時～午後 5 時 (日本時間)</p>   |



|  |   |   |
|--|---|---|
|  | <p>言語：未定<br/>参加者（見込み）：100 名<br/>担当：未定</p>   | <p>方法：会場参加（先着 20 名）とオンライン参加（Zoom ウェビナーによる）のハイブリット開催<br/>会場：渥美国際交流財団ホール<br/>言語：日本語<br/>参加者：約 40 名<br/>報告書：SGRA レポート第 105 号（2023 年 10 月 30 日発行）</p> <p>■ プログラム</p> <p>【講演 1】オリガ・ホメンコ（オックスフォード大学日産研究所）<br/>【講演 2】塚瀬 進（長野大学環境ツーリズム学部）<br/>【話題提供 1】ナヒヤ（内蒙古大学蒙古歴史学系）<br/>【話題提供 2】グロリア・ヤンユー（九州大学人文科学研究院）<br/>【自由討論】司会/モデレータ：マグダレナ・コウオジェイ（東洋英和女学院大学）</p>                      |
|  | <p>⑩ 第 19 回、20 回 SGRA カフェを主催<br/>テーマ：「未定」（企画を公募中）<br/>日時：未定<br/>会場：ハイブリッド<br/>言語：日本語<br/>参加者（見込み）：100 名<br/>担当：未定</p> | <p>第 19 回 SGRA カフェ「国境を超える『遠距離ケア』」を開催<br/>テーマ：「国境を超える『遠距離ケア』」<br/>日時：2023 年 10 月 14 日（土）14：00～16：00<br/>方法：会場及び Zoom ミーティング<br/>言語：日本語<br/>参加者：約 50 名<br/>報告書：SGRA かわらばんに掲載</p> <p>■ プログラム</p> <p>【討論】アキバリ・フーリエ（司会）（千葉大学）<br/>張 悦（張福祉コンサルティング）<br/>レティツィア・グアリーニ（法政大学）<br/>ファスベンダー・イザベル（関西外国語大学）<br/>沈 雨香（早稲田大学）<br/>【質疑応答、グループディスカッション、ディスカッション内容の報告】<br/>【まとめ】張 悦</p> |



第 20 回 SGRA カフェを開催

テーマ：「パレスチナについて知ろうー歴史、メディア、現在の問題を理解するために」

日 時：2024 年 2 月 3 日（土）14:00～15:30

方 法：会場及び Zoom ウェビナー

言 語：日本語

参加者：会場 10 名、オンライン 20 名

報告書：SGRA かわらばんに掲載

■ プログラム

【講師】ハディハーニ（明治大学特任講師）

【討論・司会】シェッターディ、アキル（慶應義塾大学総合政策学部訪問講師）

アシスタント：徳永佳晃（東京大学\_地域文化研究）



第 21 回 SGRA カフェを開催

テーマ：「日本社会における二重国籍の実態ー複数国籍保持者に対するスティグマ付与と当事者らの実践」

日 時：2024 年 2 月 17 日（土）14:00～16:30

方 法：会場及び Zoom ミーティング

言 語：日本語

参加者：57 人

報告書：SGRA かわらばんに掲載

■ プログラム

【講師】武田里子（大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員研究員）

【イントロダクション、司会】コーベル・アメリ（獨協大学特任講師）

【話題提供】ヴィラーグ・ヴィクトル（日本社会事業大学准教授）

金 崇培（国立釜慶大学助教授）

高 偉俊（北九州市立大学国際環境工学部教授）



11 持続可能な共有型成長セミナーを SGRA フィリピンと共催

2023 年 4 月 (37 回) 渥美財団/オンライン「東アジアダイナミクス」((8) ①参照)

2023 年 7 月 (38 回) UPLB 校内/オンライン

2023 年 9 月 (39 回) UPLB 校内/オンライン

2023 年 11 月 (40 回) UPLB 校内/オンライ

2024 年 2 月 (41 回) UPLB 校内/オンライン

言語：英語

担当：マックス・マキト (フィリピン大学ロスバニョス校)

■第 37 回：共有型セミナー@東京「東アジアダイナミクス」を開催 ((8) 1 参照)

■第 38 回：2023 年 10 月 14 日 (土) 9:00~12:00

会 場：フィリピン大学オープン大学+Zoom

参加者：会場 15 名、オンライン 47 名

テーマ：「地域通貨を求めて」

■第 39 回：2024 年 1 月 29 日 (月) 開催予定

会 場：フィリピン大学オープン大学+Zoom

参加者：会場 20 名、オンライン 23 名

テーマ：「中央分権化と零細・中小企業」

■第 40 回：2024 年 3 月 8 日 (金) 開催予定

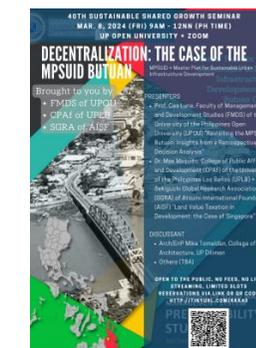
会 場：フィリピン大学オープン大学+Zoom

参加者：会場 17 名、オンライン 35 名

テーマ：「地域における次のシンガポールの構築パート 2：ブットアン市」

■SGRA フィリピンとフィリピン大学オープン大学の共同主催。

渥美財団 SGRA は資金的支援+開会挨拶



12 その他

2024 年 2 月 SGRA フォーラム・カフェ・セッション及び東アジア日本研究者協議会における SGRA セッションの企画案を元渥美奨学生を対象に公募

2024 年 2 月に 2025 年度のプロジェクトを、全ラークンメンバー宛の E メールで募集。6 チーム応募。実現可能性を考慮し下記 5 チームの企画案を採用。

- ・SGRA フォーラム：アキルチーム「国際政治から見たパレスチナ問題」
- ・SGRA カフェ：ソンヤチーム「クアアなソーシャルワークとは？」
- ・東アジア日本研究者協議会：
  - 李趙雪チーム「植民地・租界の美術と美術史」
  - 梁蘊嫻チーム「映画や漫画にみられるジェンダーの問題」

張桂娥チーム「都市空間におけるモビリティ/物語空間におけるモビリティ」

(9) SGRA レポートの発行

1 フォーラムの講演録の冊子をレポートとして発行し、会員他に送付する。  
発行部数は各号 800～1000 部。また、PDF 版をホームページに掲載する。



第 101 号「歴史大衆化と東アジアの歴史学」(日中韓 3 言語版)

第 101 号「歴史大衆化と東アジアの歴史学」(日中韓 3 言語版) 日本語版：2023 年 3 月 22 日発行。韓国語版：2023 年 6 月 21 日発行。中国語版：2023 年 8 月 2 日発行。

第 102 号「モダンの衝撃とアジアの百年」(日中合冊版)

第 102 号「モダンの衝撃とアジアの百年—異中同あり、通底・反転するグローバリゼーション—」(日中合冊版)：2023 年 6 月 14 日発行。

第 103 号「木造建築文化財の修復・保存について考える」(日中韓 3 言語版)

第 103 号「木造建築文化財の修復・保存について考える」日本語版：2023 年 11 月 10 日発行。中国語版・韓国語版：編集中。

第 104 号「新たな脅威・新たな安全保障」(日韓合冊版)

第 104 号新たな脅威 (エマージングリスク)・新たな安全保障 (エマージングセキュリティ) - これからの政策への挑戦 - (日韓合冊版)：2023 年 11 月 15 日発行。

第 105 号「20 世紀前半、北東アジアに現れた『緑のウクライナ』という特別な空間」：2023 年 10 月 30 日発行。

[レポート送付先]  
・賛助会員と特別会員 (顧問、講師、元渥美奨学)

・6 月下旬に年報とレポート 101 号、102 号を SGRA 会員と国内と海外の機関に送付。  
・11 月下旬にレポート 103 号、104 号、105 号を SGRA 会員と国内と海外の機関に送付。

|       |  |   |
|-------|--|---|
|       | <p>生 他) 約 600 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立国会図書館に納本 (ISSN 1346-0382)</li> <li>・鹿島建設資料室に納本</li> <li>・国内大学留学生センター、図書館、メディア、政党等に納本 約 70 機関</li> <li>・海外の日本研究センター、図書館等に納本 約 60 機関</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各号、発表者に 20 冊、登壇者に 5~10 冊を送付。</li> <li>・国史対話レポートは登壇者に加えて今までに参加した研究者全員に該当言語のレポートを送付。</li> <li>・鹿島建設資料室に納本。</li> <li>・国立国会図書館に納本予定。</li> </ul>   |
|       | <p>2 SGRA レポートの教材化プロジェクト</p> <p>高校や大学の授業の副教材として使ってもらえるように、レポートの内容から PPT と動画を作成し、SGRA ホームページから誰でも無料で利用できるようにする。</p> <p>2023 年度に 2 冊教材化をめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート第 90 号「第 4 回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性—『東アジア』の誕生—19 世紀における国際秩序の転換—」</li> <li>・レポート第 99 号「夢・希望・嘘—メディアとジェンダー・セクシュアリティの関係性を探る—」</li> </ul> | <p>① レポート第 90 号「第 4 回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性—『東アジア』の誕生—19 世紀における国際秩序の転換—」(担当：陳璐)</p> <p>2024 年 8 月：パイロット版 (日本語、中国語) をお披露目。</p> <p>2024 年 9 月：完成版を公開予定。</p> <p>② レポート第 99 号「夢・希望・嘘—メディアとジェンダー・セクシュアリティの関係性を探る—」(担当：ソンヤ)</p> <p>2023 年 12 月：撮影。</p> <p>2024 年 11 月：パイロット版をお披露目。</p> <p>2024 年 12 月：完成版を公開予定。</p> <p>③ レポート第 101 号「第 7 回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性—『歴史大衆化』と東アジアの歴史学」(担当：ノ・ジュウン)</p> <p>2024 年 8 月：パイロット版 (日本語、韓国語) をお披露目。</p> <p>2024 年 9 月：完成版を公開予定。</p> |
| (10)  | メールマガジンの配信   |   |
|       | 1 SGRA かわらばんの配信  | (日本語：毎週 1 回配信) 購読者 3006 名 946~1009 号  |
|       | 2 国史メルマガの配信  | (日中韓 3 言語：毎月 1 回配信) 購読者 394 名 49~55 号   |
|       | 3 SGRA China Forum Email Letter  | (中国語：不定期) 購読者 551 名 14 号  |
| ■基盤整備 |  |   |
| (11)  | ホームページの管理運営  |   |
| (12)  | 寄附金・助成金  |   |

|      |      |  |   |
|------|------|--|---|
|      | 1    | 書面による SGRA 活動賛助寄附依頼 (5 月～9 月)                    | <p>交流事業指定寄附：6 月と 11 月の SGRA レポート 発送時にお願い状を同封</p> <p>①奨学事業指定寄附<br/>寄附総額：4,000,000 円 (個人 2 名)</p> <p>②国際交流事業 (SGRA およびアジア未来会議) 指定寄附<br/>寄附総額：3,620,000 円 (法人 10 社、個人 72 名)</p> <p>③公益目的事業指定寄附 (12 月に企業に依頼状を送付)<br/>寄附総額：13,000,000 円 (法人 14 社、個人 1 名)</p> <p>④助成金・受託金<br/>総額：3,650,000 円</p> <p>・「第 8 回国史対話の可能性」フォーラムの開催に対して<br/>高橋産業経済研究財団より助成金 3,000,000 円を受給</p> <p>・「第 21 回日韓アジア未来会議」の開催に対して<br/>鹿島学術振興財団のご協力によりフォーラム実行委員会より 500,000 円を受託</p> <p>・「第 10 回日台アジア未来フォーラム」の開催に対して<br/>一般財団法人くにびきメッセより補助金 165,000 円を受給</p> |
|      | 2    | 賛助企業・寄附者を訪問依頼 (12 月～1 月)                         | 公益事業指定寄附：12 月にお願い挨拶   |
|      | 3    | 国際交流事業の各プロジェクトのために助成金申請と賛助寄附金を募金                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京倶楽部に助成申請 (2024 年 8 月開催の国史対話)</li> <li>・高橋産業経済研究財団に助成申請 (2025 年 2 月発行予定の AFC7 優秀論文集)</li> </ul>  |
|      | (13) | 2022 年度年報 (1300 部)                               | 6 月 1 日発行   |
|      | (14) | 公益財団法人、在日留学生支援団体との情報交換と交流                        | <p>JISSA 総会に参加。</p> <p>JISSA の提供する東フィル鑑賞券の配布 (8 回 29 名に配布)</p>  |
| ■その他 |      |  |   |
|      | (15) | 理事会と評議員会   |   |
|      |      | 第 43 回理事会 2023 年 5 月 13 日 (土) (アルカディア市ヶ谷 (私学会館)) | 第 43 回理事会を 5 月 13 日 (土) にアルカディア市ヶ谷 (私学会館) とオンラインのハイブリッドで開催。   |
|      |      | 第 17 回評議員会 2023 年 6 月 1 日 (木) (鹿島 KI ビル)         | 第 17 回評議員会を 6 月 1 日 (木) に鹿島建設 KI ビルとオンラインのハイブリッドで開催。終了後に井上博允評議員の講演会。  |

|      |   |  |
|------|---|--|
|      | 第 44 回理事会 2023 年 6 月 2 日（金）理事長、<br>常務理事の選任（オンライン）   | 第 44 回理事会を 6 月 2 日（金）にオンラインで開催。  |
|      | 第 45 回理事会 2023 年 12 月 16 日（土）（渥美<br>財団ホール：忘年会の前に）   | 第 45 回理事会を 12 月 16 日（土）に渥美財団で開催。終了後に 2023 年度奨学生と忘年会@音の葉<br>カフェ。  |
|      | 第 46 回理事会 2024 年 3 月 2 日（土）（渥美財<br>団ホール：研究報告会の前に）   | 第 46 回理事会を 2024 年 3 月 2 日（土）に渥美財団で開催。終了後に椿山荘で昼食をとり、午後は<br>春季研究報告会に参加。  |
| (16) | 設立 30 周年記念事業  |  |
|      | 1 渥美財団設立 30 周年記念誌の出版<br>発行予定部数：2000 部<br>発行予定：2024 年 3 月（「感謝の集い」で配布）                                | 渥美財団設立 30 周年記念誌を 1300 部発行。発行日は 2024 年 3 月 22 日（感謝の集いの日）<br>目次：1. 財団について（理事長、前理事長、評議員・理事・選考委員）2. 奨学事業（座談会と<br>奨学生紹介）3. 国際交流事業（SGRA について、海外拠点プロジェクト、アジア未来会議、国史対<br>話）4. 資料（役員在任一覧、開催リスト、出版物、レポートバックナンバー）                                       |
|      | 2 渥美財団設立 30 周年感謝の集い開催<br>日時：2024 年 3 月 22 日（金）11:30～14:00<br>会場：椿山荘ホテル 1 階ボールルーム<br>招待者（予定）：300 名程度 | 渥美財団設立 30 周年感謝の集いを椿山荘ホテルボールルー<br>ムで開催。参加者は 200 名。着席和食。<br>渥美直紀理事長挨拶、永山治中外製薬名誉会長祝辞、乾杯は<br>天野鹿島建設社長。司会は元奨学生が務め、テーブルごとに<br>会話が進むようなアトラクションを企画。最後に第 1 期と<br>29 期の奨学生が挨拶し、渥美伊都子前理事長に花束を贈<br>呈。鹿島建設勤務の元奨学生の中締め（手締め）。集合写真<br>を撮影しお開きに。二次会は渥美財団ホールで。 |

